

須田先生を偲ぶ

内田寿一（東北学院大学名誉教授）

須田先生は昭和2年に広島県にお生まれになり、今年2月20日、肺炎で突然お亡くなりになりました。その悲しみは言葉には言い尽くせません。

昭和25年3月に東北大学理学部を卒業後、大学院理学研究科へ進学、昭和30年理学部助手に、昭和37年助教授に、昭和56年教授に昇任されました。この間、一時、カリフォルニア大学の招聘研究員として研究に従事され、恒星の内部構造の新しい研究方法を創成されました。

先生は、わが国における恒星進化論の開拓者の一人として、恒星物理学、特に恒星進化の理論的研究に関して数々の先駆的な、輝かしい業績を上げられました。また、日本天文学会の副理事長を務め、日本天文学会の運営にさまざまな新機軸を打ち出し、日本天文学会の活性化と発展に大きく貢献されました。

主な研究業績は次のとおりです。

(1) 恒星の外層の研究

対流状態にある外層と放射が支配的な恒星外層の構造を詳しく調べ、エネルギー伝達機構の違いによる恒星外層の構造の違いを明らかにした。

(2) 回転する恒星の研究

回転により恒星内部には循環が発生し恒星進化に重大な影響を与える。回転する完全縮退した恒星の内部の構造を解析し、その性質を明らかにした。

(3) 縮退したコアをもつ内部構造の研究

恒星の進化が進むと、恒星の中心部に電子が縮退したコアが形成される。コアの縮退の進行に伴う恒星の進化系列を詳しく分析した。

(4) 二重エネルギー源をもつ恒星の研究

恒星のコアの外層の水素の核融合反応と中心部でのヘリウムが核融合反応、二重のエネルギー源をもつモデルを構築し、コアの質量や元素組成の違いによる、恒星の構造や観測量的変化を明らか



定年退官記念パーティーの須田先生。



東北大学天文学教室をバックにインド人のバルジャー教授と。

にした。

(5) 恒星内部の対流層の研究

対流状態にあるコア、放射平衡状態にある中間層、そして、対流状態にある外層部をもつ恒星のモデルを構築し、その性質を詳しく研究した。

先生は文学に対してもご関心が深く、ご自身は短歌をよくお作りになり、いくつかの賞もどっておられました。

先生と一緒に飲みながら議論をしあったことなど、思い出は尽きません。先生、どうぞ安らかにお眠りください。